

シスター・サラ

本当に一人で
大丈夫ですか

神父様！



ご心配には
及びません

二日で
戻りますので

私はサラ
この教会でシスターとして
暮らしています

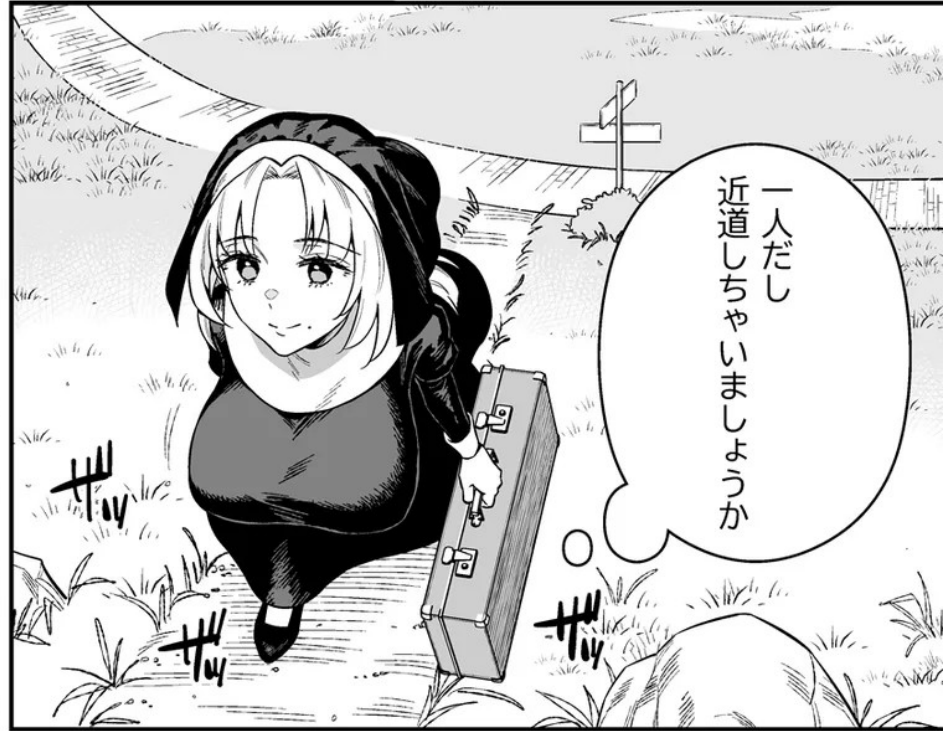
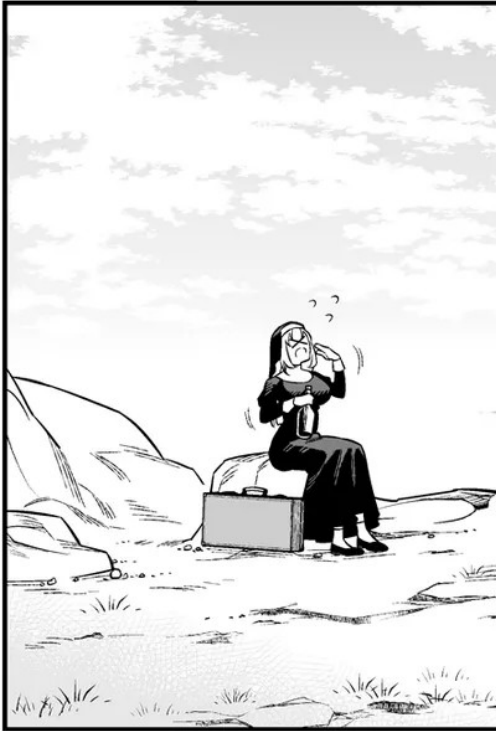
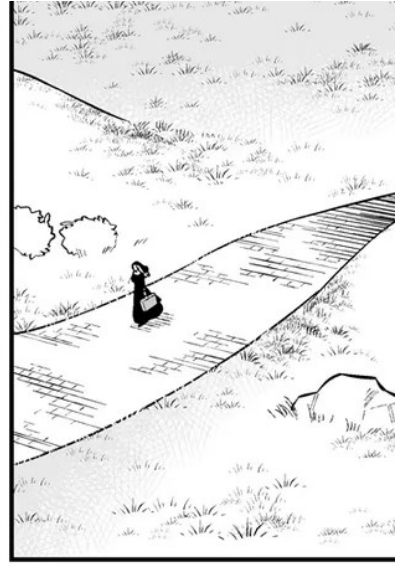
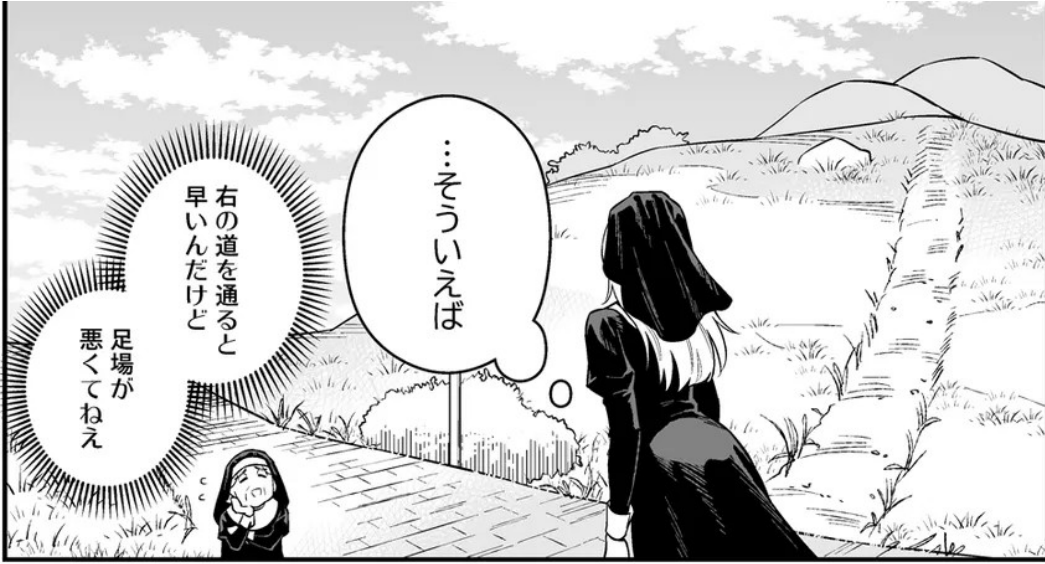
以前は他の
シスターと一緒にいたが
足を悪くされてしまい

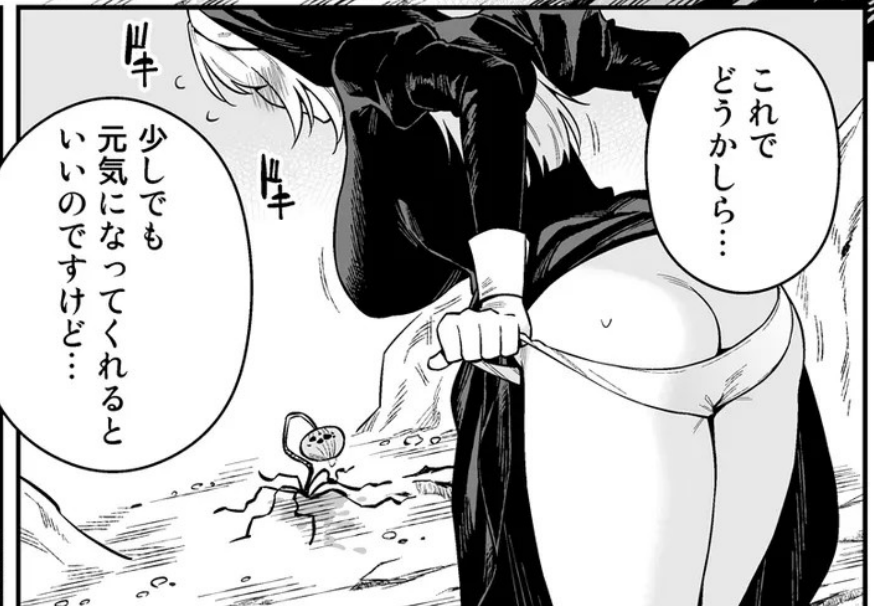
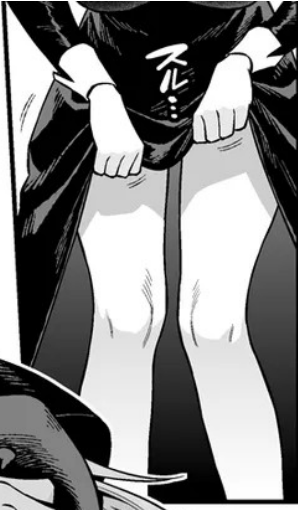
初めて一人で
伺うことになりました

今日は
隣村の子供たちに
勉強を教えに行く日です

膝がねえ
どうにもねえ



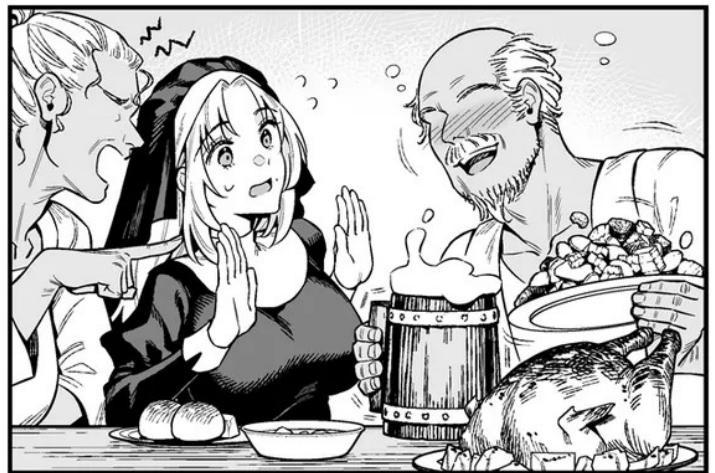
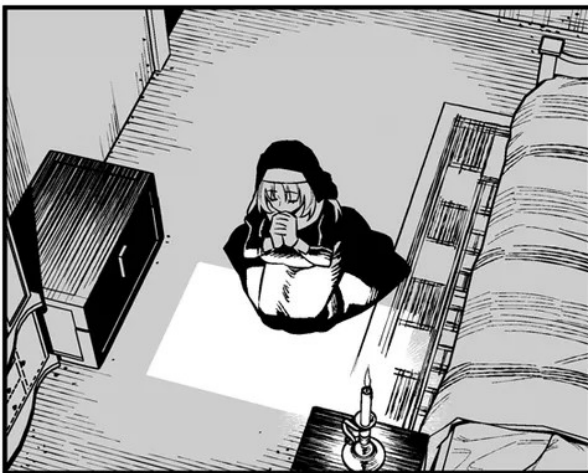


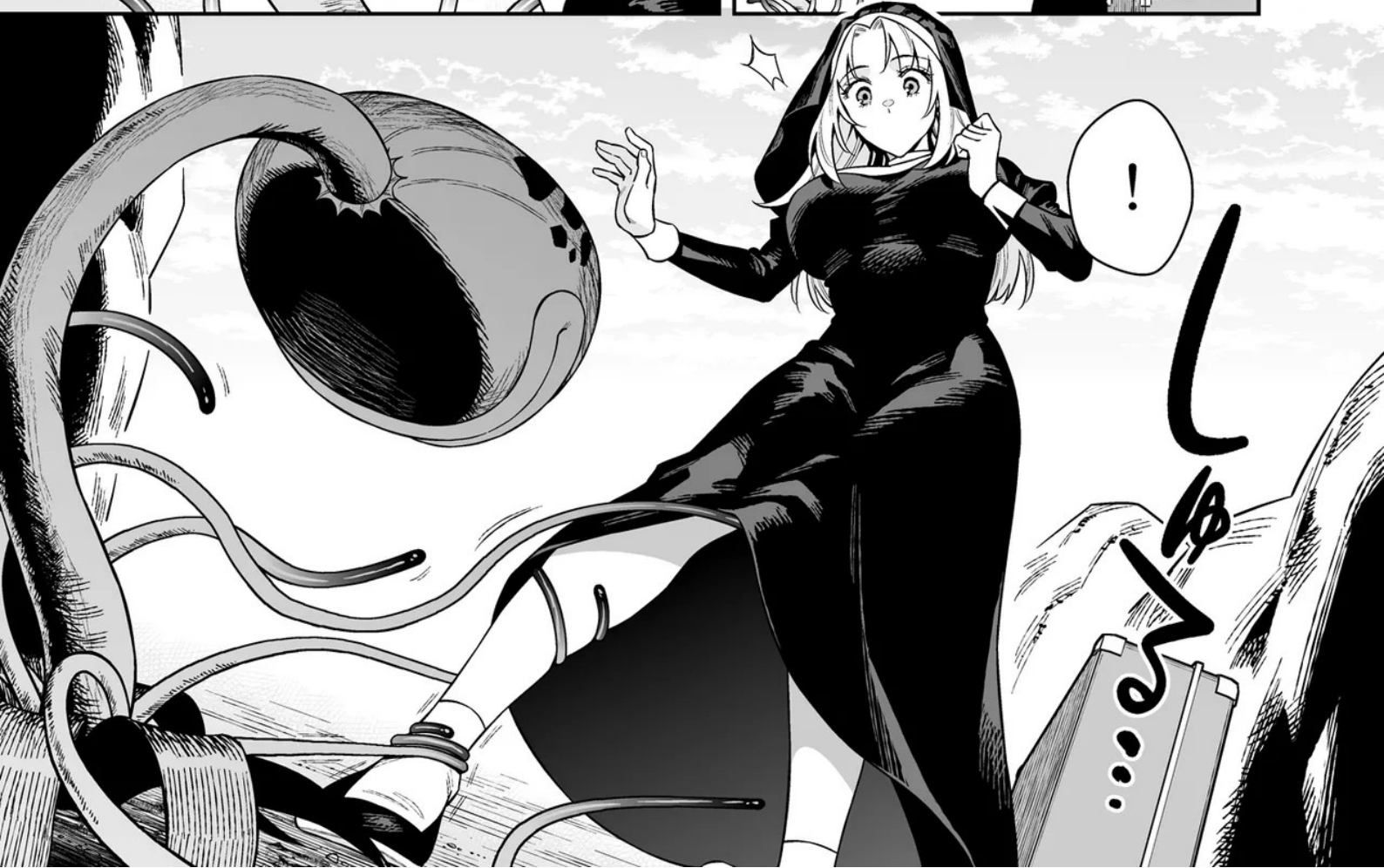


少しでも
元気になってくれると
いいんですけど...

これで
どうかしら...









私
水を持って
きました

待って
ください！



み水じゃ
だめなんですか…？

そんな…

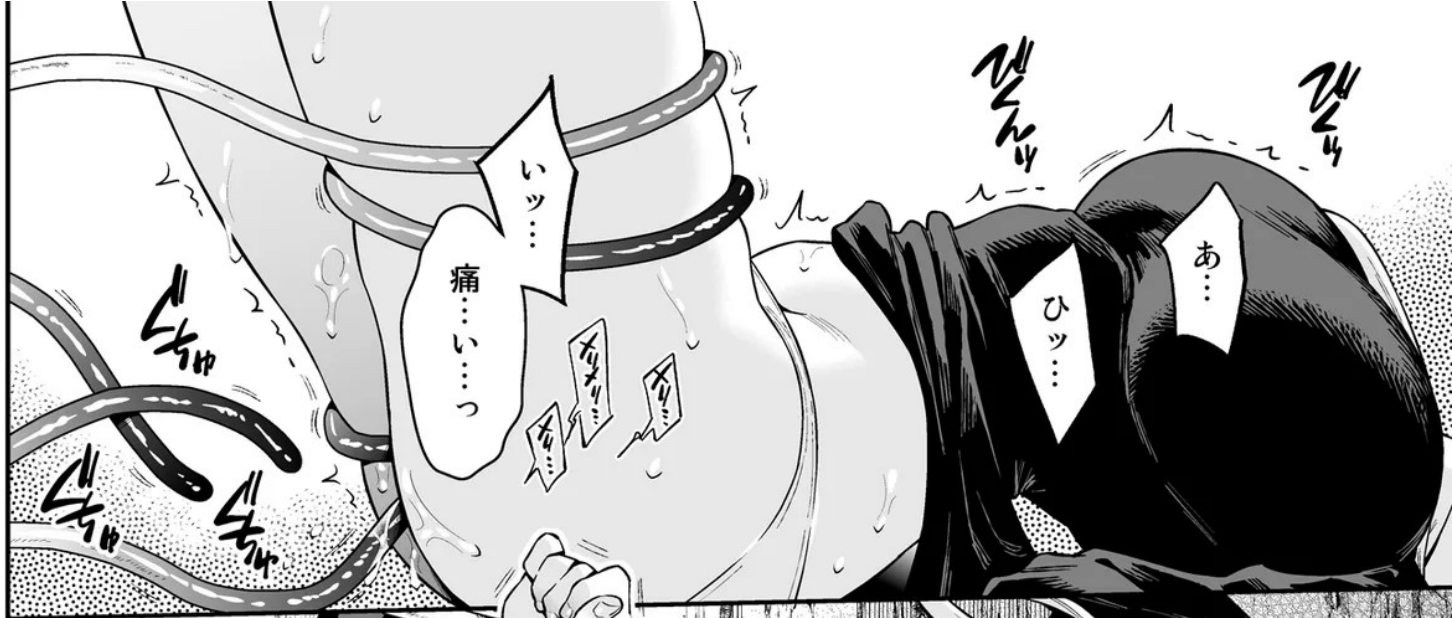
びしょびしょ…

びしょびしょ…

びしょびしょ…

びしょびしょ…







ああ…神よ…

わたしは…

このまま
死ぬの
でしょうか…



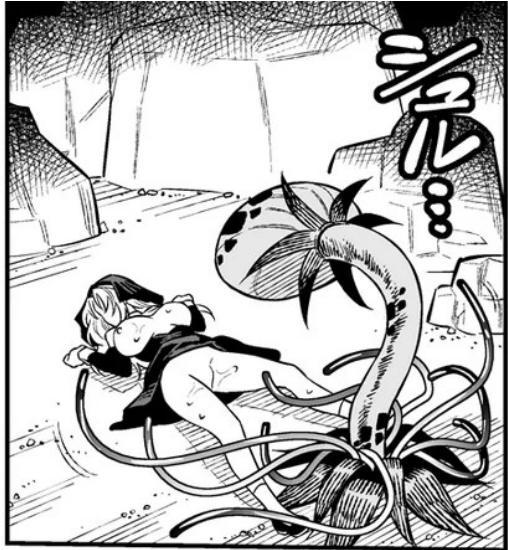
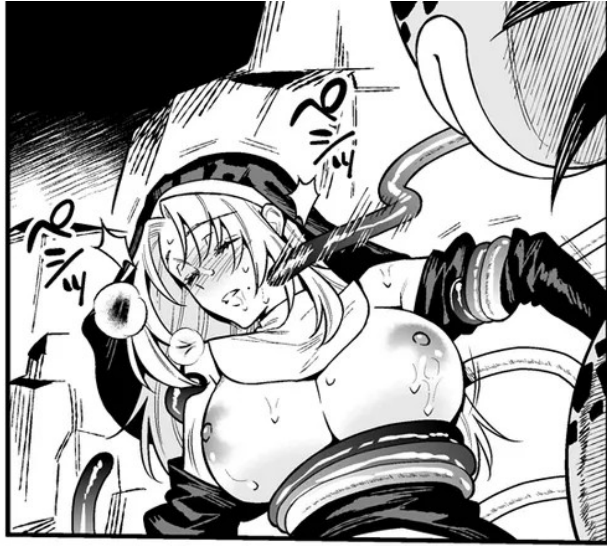
力が…

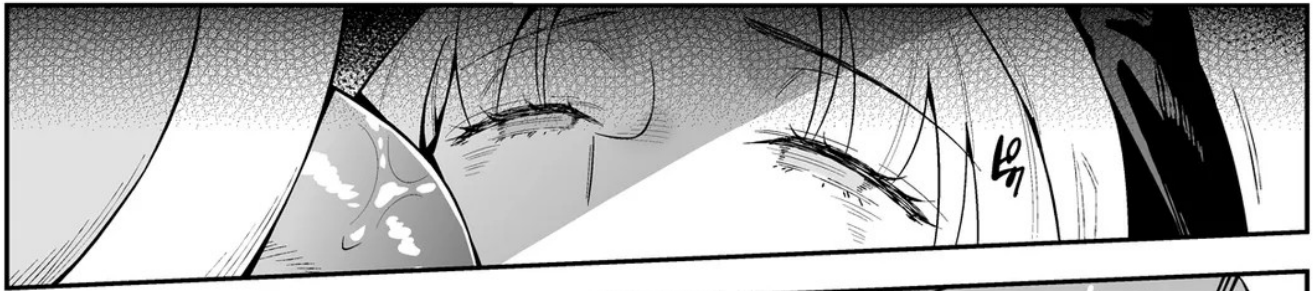
入らない…



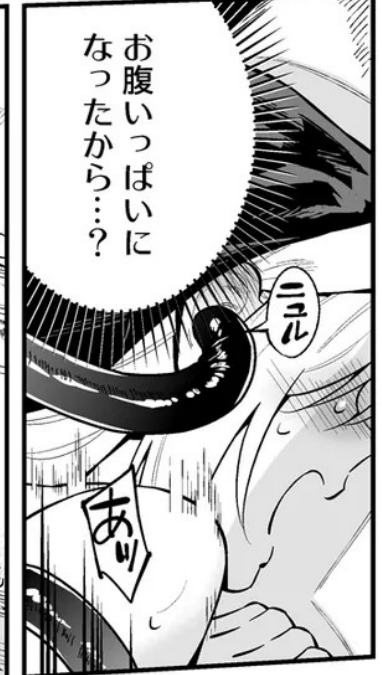
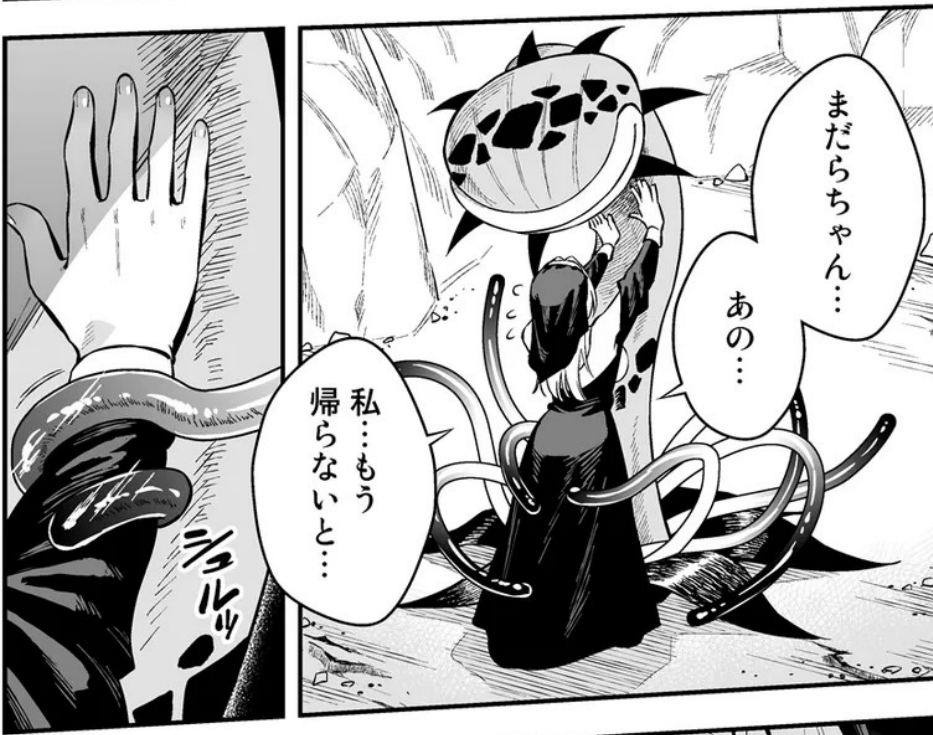
もう…

目も開けて
いられないほど…







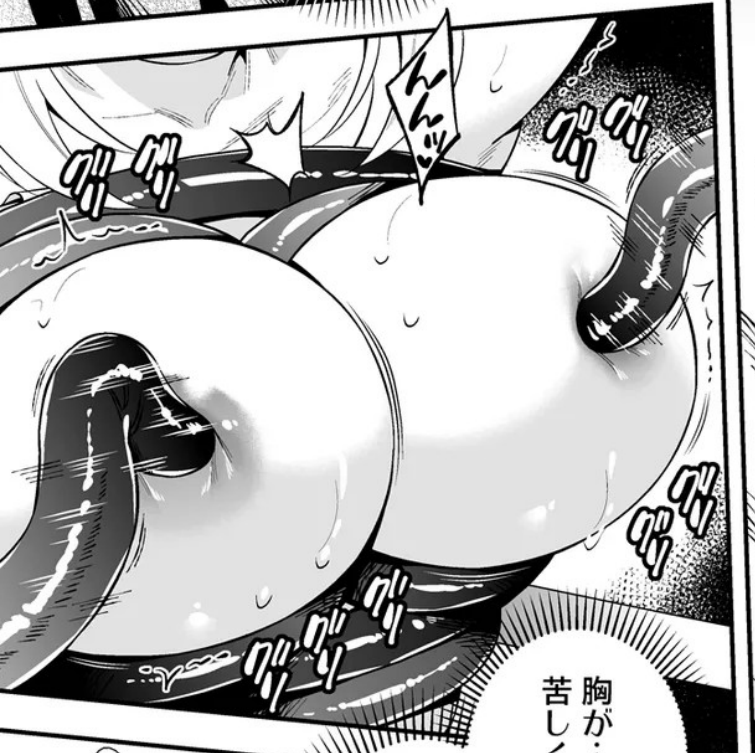






ああ…
神よ…

どうか
お許しを…



胸が…
苦しくて…

張り裂けそう…



いいえ…
もっとして
欲しい…!

わたし…
姦淫の快楽を
知ってしまいました…

もう言い訳
できません…



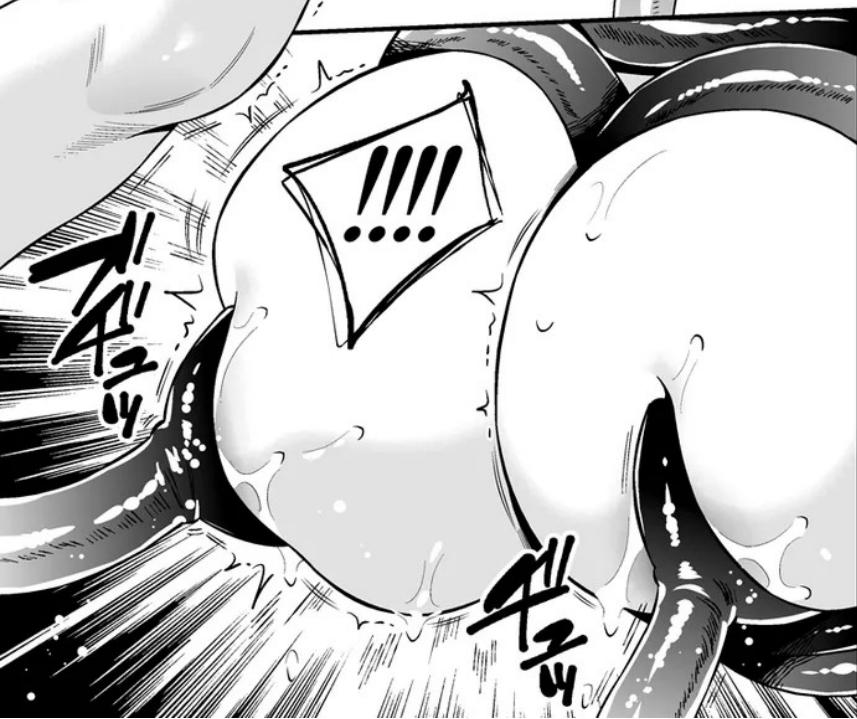
ズン...

ズンズン

ズン...

ズンズン...

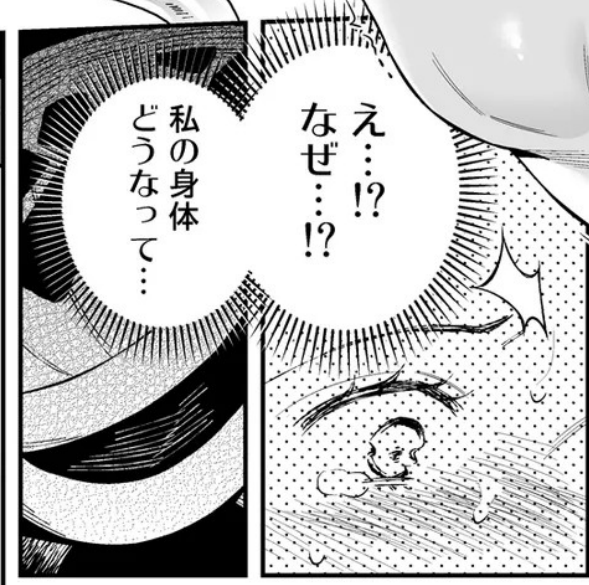
ズンズン



!!!

ズンズン

ズンズン



え...!?
なぜ...!?

私の身体
どうなって...

ズンズン



すっ…
吸われてる…ッ

ああッ



私のお乳が…
まだらちゃんに…ッ

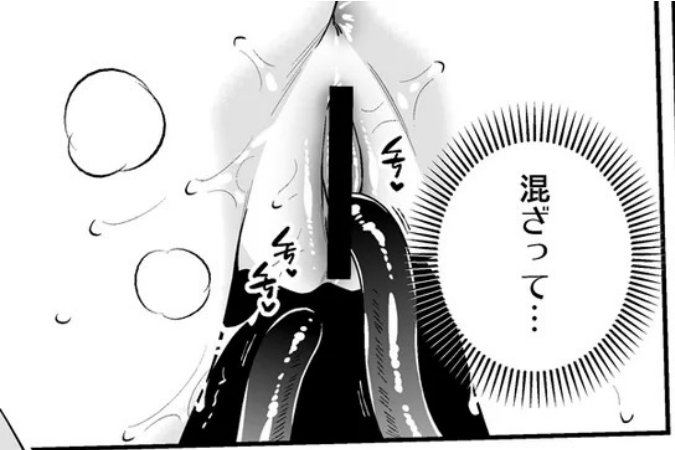
ッ…なに…
この感覚…



私そのものが…
流れ出ていく
みたい…ッ

あ…ッ

グッ…



私のお乳を飲んだ
まだらちゃんは…

私の子
なのでは…？

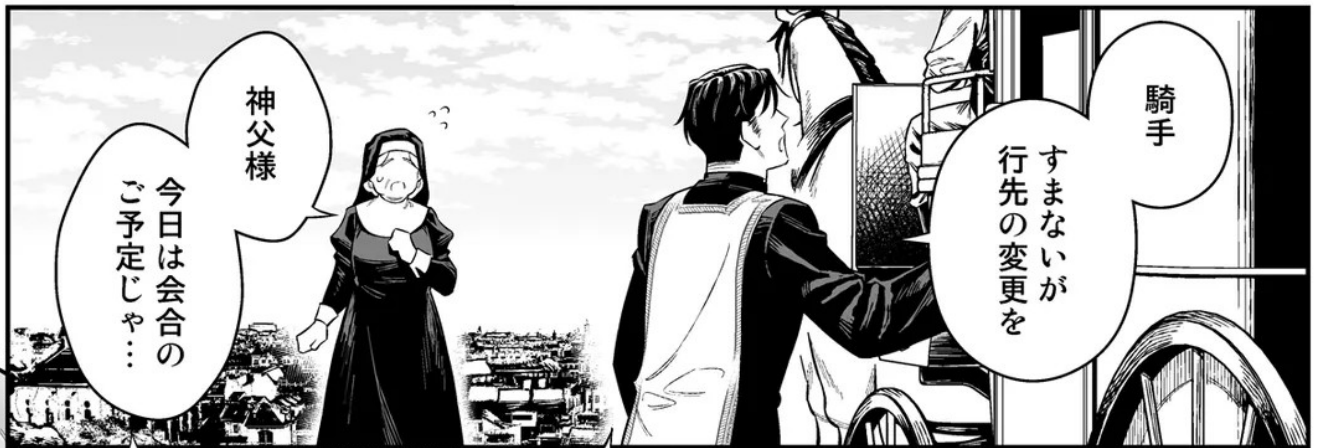
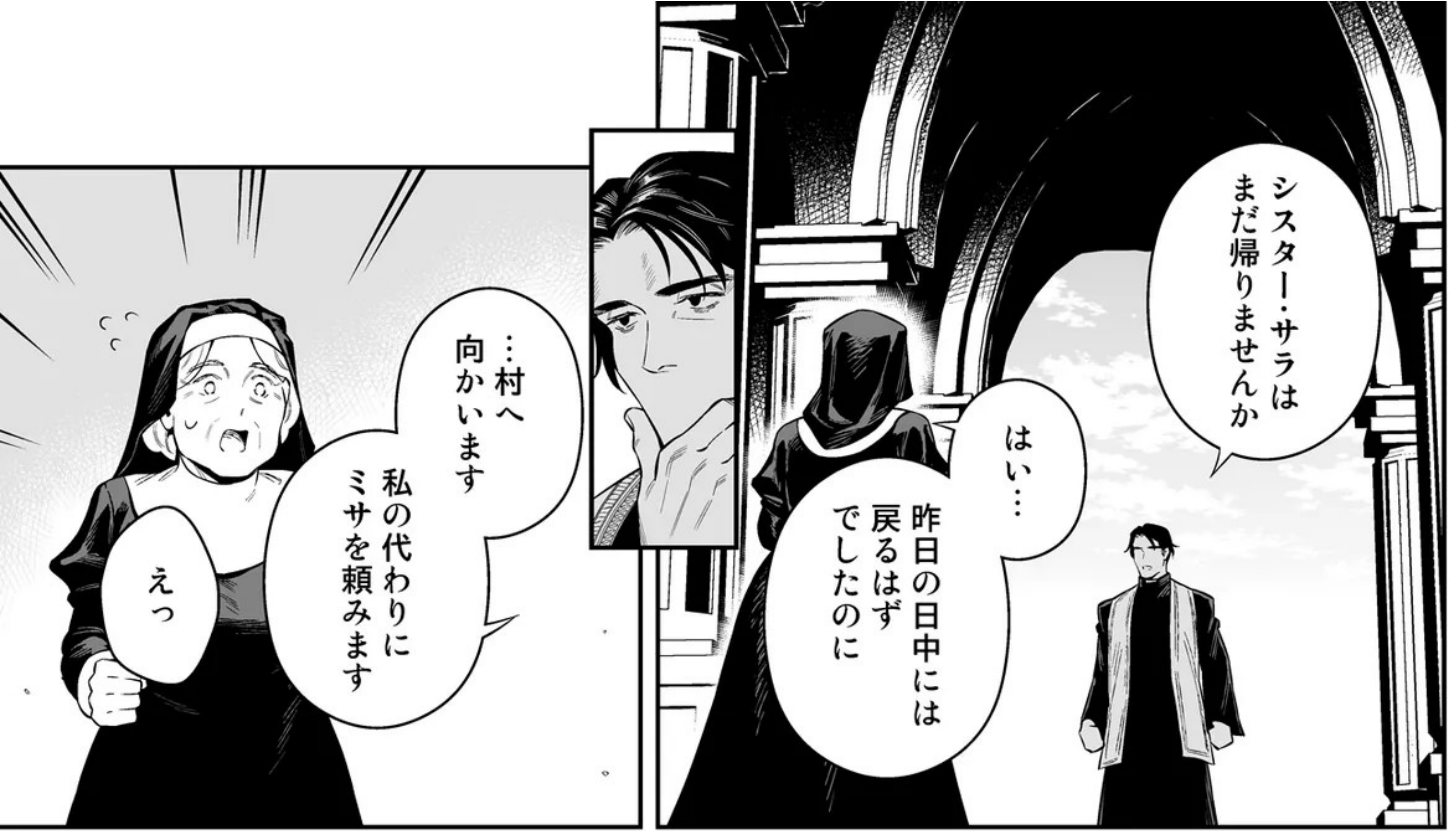
つまり…
私は…

この子の母に
なったのでは…？

これは
姦淫などではなく

尊い愛の行為なのでは







私の帰りを
待っている
人がいます

まだらちゃん
…聞いて

心配しないで…
お別れでは
ありません



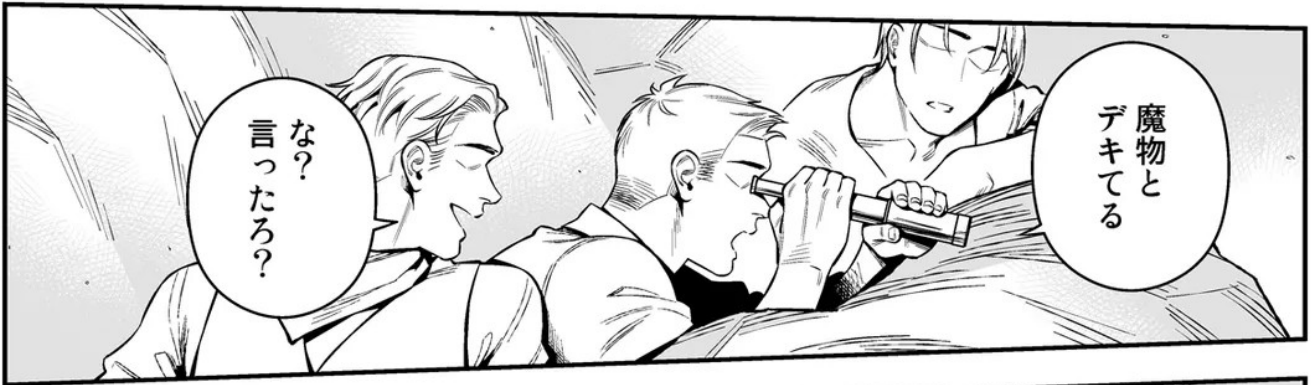
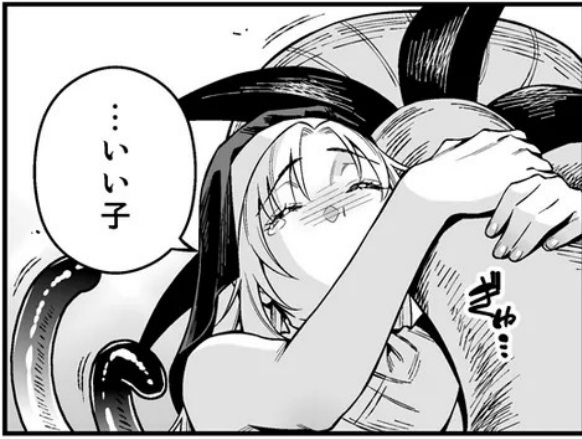
必ず
迎えに来ます

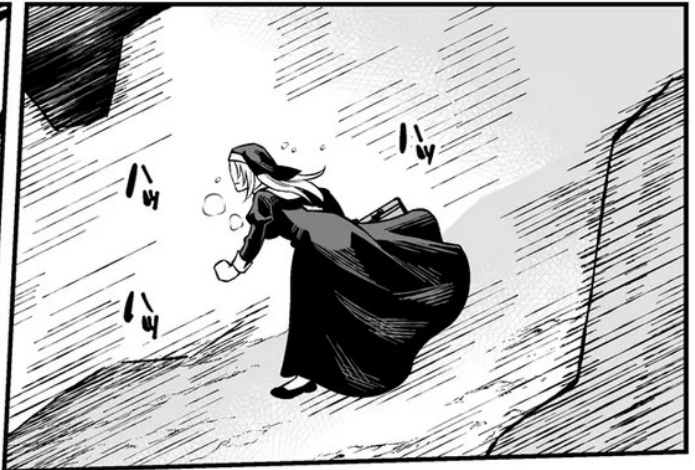
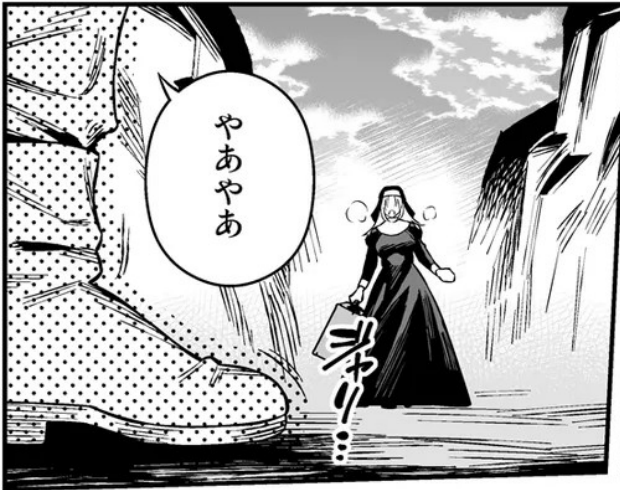
私たち
家族だもの

あなたが街で
暮らせるよう
相談してみます

私一人では
難しくても…

知恵を募れば
きっと…







そんな情報は
初耳だ

ギルドは何を
しているんです

い...
いくつかの
拠点を
転々として

足取りが
掴めないとかで...



村の皆も
用心するように！



街へ
引き返す

ギルドに
直談判
しなければ



おっ お金も
貴重品も
持ってません

どうか
離してください

へ...
分かって
ねえな

アンタ自身が
商品なんだよ



この身体なら
もっと似合いの
仕事があるぜ？

魔物なんかより
人間相手に
する方がいいだろ

!?

見られてた
なんて…っ

いッ…

いや…あ…



付…あ

お!?

なんだく？

あ
シスターのくせに
母乳が出んのか

おいおい
禁欲を説きながら
ガキ作ってんのかよ

ちがいます…

もう…
やめて…え…

あッ…



うんま...
母乳ってこんな
甘かったか？

前馬車を
襲った時に
赤ん坊抱いた
女がいたろ

あいつの母乳は
もっと薄味だった



...なんて

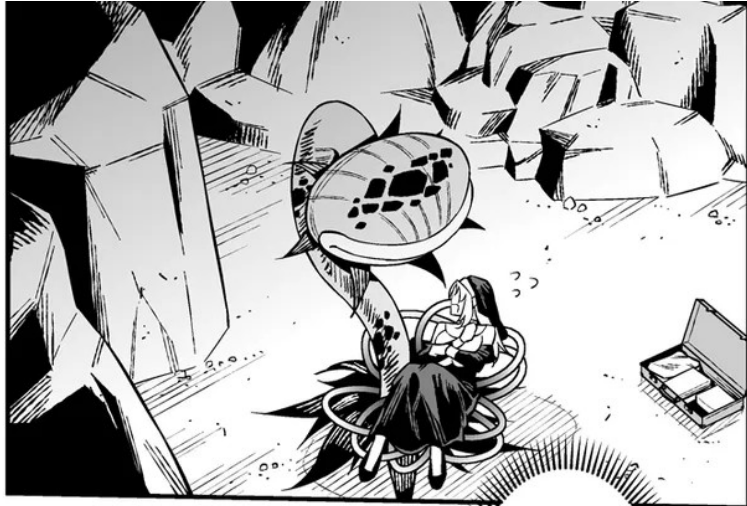


なんて
罪深い人たち



あれか
ガキを人質にしたら
大人しく股開いて
最高だったな〜

母親ってのは
子供のためなら
なんでもするからな



早く…

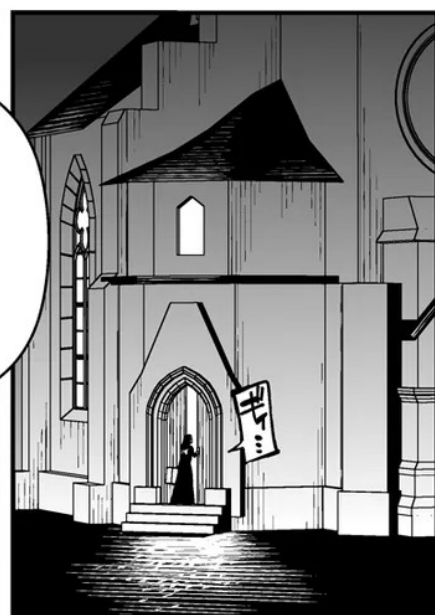
早くここから
離れなくては…!!



神父様…

ずいぶん
遅かったですか
ないですか

シスター・サラ…!?





おやすみ
なさいませ
神父様

……すみません
疲れているので
失礼します



申し訳
ありません

その……

少し道に迷って
しまいました……

隣村へは何度も
行っているでしょう

……



眠れる
わけがない



まだらちゃんに
触れられたところが
熱を持っているよう……



神よ……

どうか
お救いください……



なんなのでしょう……

この体の疼きは……

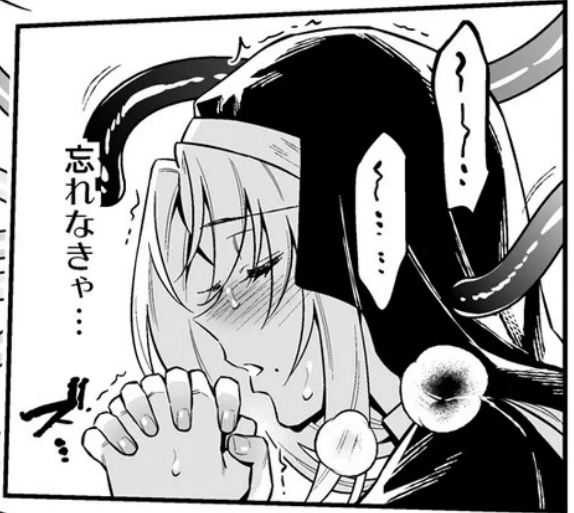
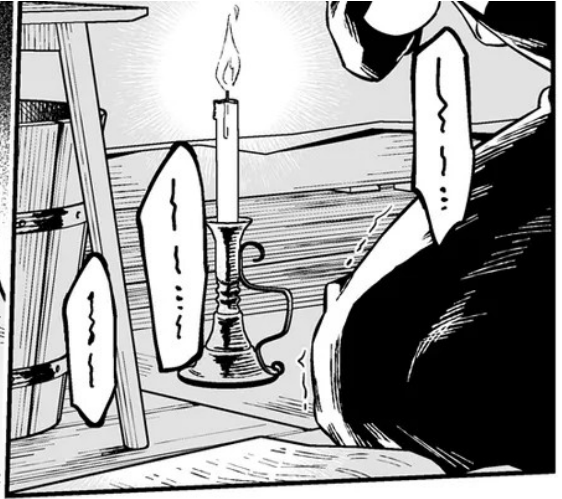
はは

はは

はは

はは

はは



忘れなきや：
いけないのに……

忘れなきや……

神父様!?

ここは
女子寮なのに

部屋の明かりが
見えました

まだ
起きていますね?
シスター・サラ

何か心に
抱えているものが
あるようですが……

よければ告解室で
私にすべて
話してみませんか

もちろん
秘密は守ります

告解室……



なかなか寝付けないだけで…



…体が…その…
火照ってしまった

急いで帰ってきたから…



いえ…
そんな
神父様にお話しするほどのことではありません



…そうですか



いい夢を
シスター・サラ



落ちて着けるよう
温かい飲み物を
用意しました
これだけでも
受け取ってください



ここに居るのを
誰かに見られたら

神父様でも
咎められて
しまうのに…



ギィ…

もういない…



…今日の

まだらちゃんとの
“あれ”は



よほど心配させて
しまったんですね…

…おいしい

甘くて
とてもいい香り



姦淫

…そういうものでしょう…

神の教えにおいて
姦淫は大罪です…

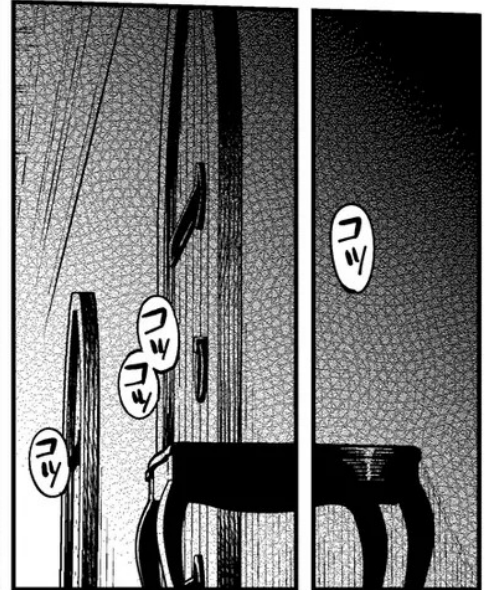
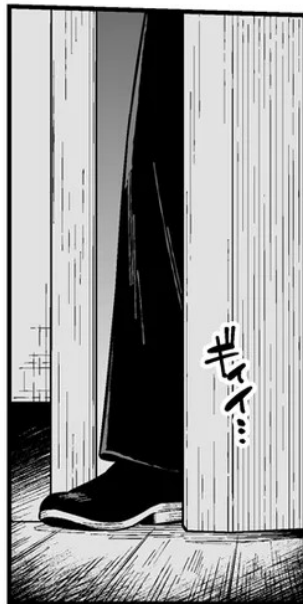
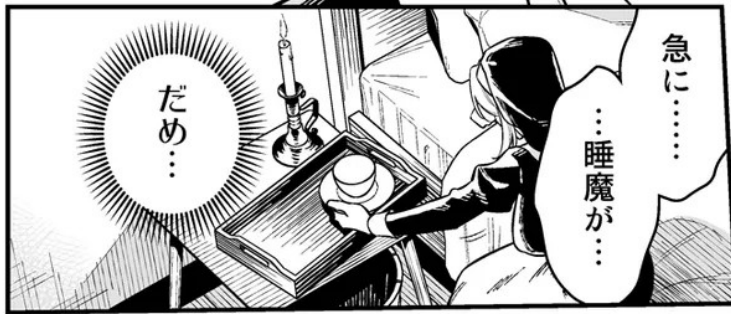
まだらちゃんが
食事のつもり
だったとしても…

私にとっては……

ワグン

ワグン

ワグン





あなたの意識は
だんだんと
落ちていき...

灰暗い水底の
貝の中に
囚われました

これから
あなたの肉体に
何が起きても

意識まで
届くことは
ありません

アッ...



しかし
神父として…
また養父として

あなたの全てを
把握しておきたい

ギョッ

ギョッ



…初めて私に
嘘をつきましたね

サラ

あなたも
大人になったという
ことでしょうか…



隅々まで
検^{もた}めていきますよ



これは…

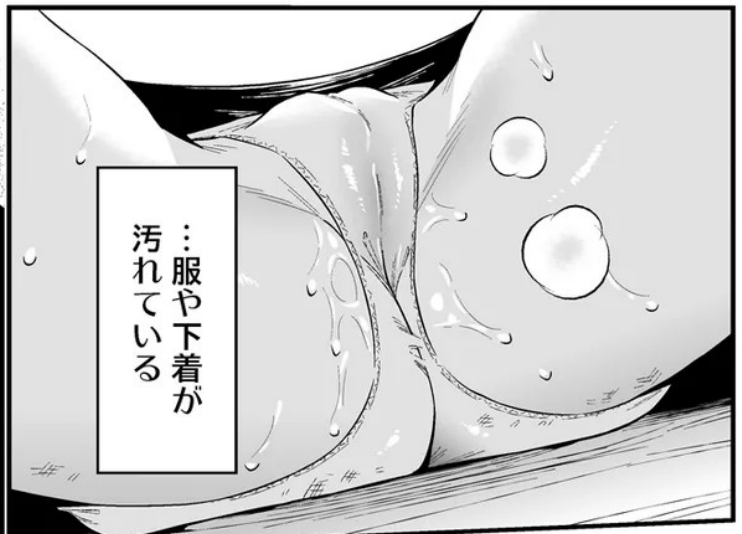
…!



暴漢に
襲われたか…?

包み隠さず
話してくれたら
よかったのに…

やはり一人で
行かせるべきでは
なかった



…服や下着が
汚れている



体には
擦り傷もある…





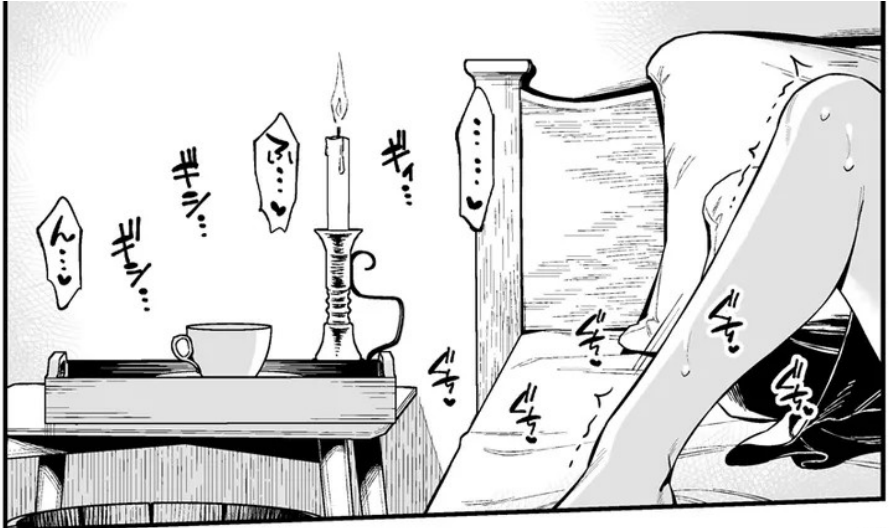




はっ
はっ

…もう
私の知っているサラは
どこにもいない……





どうしようもなく
どす黒い感情に
塗り潰されそうになる





神よ…

どうして
このような試練を
与えるのですか



この身を
切る思いも
報われないのなら



本懐を遂げて
しまおうか



いっそ
聖職者である
ことなど忘れて

ただの
男と女になって



は……は

は……は……は……

は……は……

あ……あ……あ……

は……は……

は……は……

は……は……

は……は……

は……は……

は……は……

だめだ……
それだけは……

私まで外道に
身を落としてしまう……

……いや……
薬を盛ってまで
姦淫してる私も

同じ穴の貉だ

は……は……

は……は……

は……は……

は……は……

は……は……

は……は……

は……は……

